

イヴ・ドルモワ / ロドルフ・ブルジェ

「プラネタリウム」

“プラネタリウム”プロジェクト：

成田空港に位置したオルネット・コルマンへのオマージュテクノ・ポエティックな声が行き交い騒々しい場所—ジュール・ヴェルヌも当然のことだが—アラン・テュラングが発信した星間のメッセージの断片—ブラッド・ウルマーにオマージュを賞したレトロ・未来派のブルース—ディラン・トマスの魅力的な子守歌—ドルモワ手法の典型的なリトモロディック (rythmolodiques) 展開—絶え間ないサスペンスと一時的結末—全てが違うように何も変えないことを求めるゴダールの声—至るところにあり、そして長い展開よりも常に好んだ“小さなフレーズ”—ジャズやブルース、ロック、エレクトロニック (音楽)、ミュージックコンクレート等、化学的に純粋なエッセンスを伴う恋の遊び。更に今風の総合への誘惑。

イヴ・ドルモワ：作曲家、サクソフォーン奏者、クラリネット奏者、エレクトロニック編曲者。パリに在住し創作活動を行う。“ムジーク・アウフヘブング (Musik Aufhebung) と全作品“グループをフィリップ・ポワリエとギ・ビッケルと共に創立。フィリップ・ポワリエとのコラボレーションでアルバム“刺 (とげ)”を執筆後、「フランス・カルチャー」のための数々のラジオ放送用創作作品によって個人的研究を発展させ、ラベルサイン (le label Signature) に発売の“街はずっと嫌いだった”ディスクに至る。ロドルフ・ブルジェやアントワーヌ・ベルジョー、パブロ・クエコ、又はジョン・チカイと共に、コンピューターやエレクトロニック (再) 構成を巡るプロジェクトを定期的に企てる。

ロドルフ・ブルジェ：作曲家、ギターリストであり歌手。パリに在住し創作活動を行う。1980年、カット・オノマ・グループの創立者であり、そこより8つのアルバムを出す。1993年、初のソロアルバム“馬—動き”を出し、1999年には、“流星雨 (Meteor Show)”を出す。また、フランソワーズ・アルディー (危険、、、) やアラン・バシヤング (軍隊幻想曲アルバムについてのサミュエル・ホール) の為に作曲、制作を手掛ける。オリヴィエ・カディオと共に2つのアルバムを出す：2000年に“インディアンでない。残念 (welche) ”、2002年には”ホテル・ロバンソン“を発売。2002年6月にはラベル“最新バンド”を作り、クロエ・モンズとアラン・バシヤングと共に“雅歌”を出し、米人ギターリスト、ジェームス・ブラッド・ウルマーと共に“Blood & Burger”を、ジャンヌ・バリバルと共に“愛人 (Paramour)”を、そしてエリック・マルシャンと共に”バッハ以前 (Before Bach) “を出す。

ドルモワとブルジェは、80年代にストラスブールで、ロックからジャズに至る様々な編成において長い間交際した。

2003年9月、パリの科学（産業）都市博物館での創作から生まれたアルバム“プラネタリウム”は、斬新な案：コンピューター＋クラリネット又はサクソ（by ドルモワ）とエレクトリックギター＋ヴォーカル（by ブルジェ）を通して、彼らの音楽的再会を決定付ける。

以来、彼らはコンサート（モントロイユ国立劇場、ミュルーズジャズフェスティバル、モントリオールジャズ国際フェスティバル、アヴィニョンフェスティバル、）に定期的に出演している。

更には、ベルギー、モンス・イマージュデュパス宮殿（le Palais des Images du Pass）のために共同で音楽を作曲し、また愛知万博フランス・パビリオンのテアトルイメルシフ（Theatre Immersif）の音楽も手掛けた。（現アルバムのタイトル11）